

令和元年度第4回経営協議会議事要録

日 時： 令和元年11月14日（木） 14：20～16：55

場 所： 大会議室

出席者： 原田 信志、古島 幹雄、松本 泰道、山崎 広道、谷原 秀信、有松 正洋、
八幡 英幸、富澤 一仁、甲斐 隆博、郷 通子、崎元 達郎、芳賀 義雄、
福島 絵美、二塚 信、古荘 文子、吉丸 良治

欠席者： 宇佐川 毅、桑野 幸徳、田川 憲生、田嶋 徹

陪 席： 浅井 裕、鶴田 哲三、清水 聖幸、大谷 順、深町 公信

議 題

1. 「国立大学改革方針」を踏まえた国立大学との徹底した対話の実施に向けた調書の作成等について

議長から、資料1-1に基づき、文部科学省から、第4期中期目標・中期計画の策定に向けた議論のキックオフとして位置づけられている「国立大学改革方針」を踏まえた国立大学との徹底した対話の実施に向けた調書の作成依頼があった旨説明があった。

引き続き議長から、資料1-3～1-6の考え方を基に調書作成を検討することについて提案があった後、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

なお、議長から、本件については、資料1-2のスケジュールに基づき調書を作成し、文部科学省へ提出する旨付言があった。

また、議長から、本件に関する追加意見を会議終了後照会する旨発言があった。

（意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等）

◇ 平成26年以降、教員数が約90名減少しているが、意図的に削減したのか、それとも自然に減少したのか。

◆ 教員数は人件費削減に伴い意図的に削減している。

◇ 文部科学省の取組みとして、手厚い支援と厳格な評価の徹底、規制緩和と体制整備とあるが、具体的にはどのようなことか。

◆ 手厚い支援と厳格な評価とは、各大学を共通評価により順位付けし、順位に応じ予算を配分することで、規制緩和と体制整備とは資産運用の柔軟化や寄附金の制度改正のことです。

◇ 附属学校や教育学部の在り方についてはどのように考えているのか。不登校や引きこもり等の社会的問題を解決できるような教員を輩出できるプログラムがあるとよいと思う。

◆ 附属学校や教育学部の在り方については、これから先の教員の需要・少子化を踏まえたうえで改革のための年次計画を立て、議論を進めており、教職大学院の一本化や大学間連携の検討をおこなっているが、全国的にも難しい問題となっている。

◇ 熊本大学の地域に対する貢献度は非常に高いと感じるので、それを強みとして活かし、引き続き頑張っていたきたい。

報告連絡

1. 寄附講座の設置について

議長から、資料2に基づき、次の寄附講座を設置することとなった旨報告があった。

○ 大学院生命科学研究部「地域連携病理学寄附講座」

- ・ 寄附者：一般財団法人化学及血清療法研究所
- ・ 設置期間：令和元年10月1日～令和6年9月30日（5年間）

2. 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について

議長から、平成30年度に係る業務の実績について、10月29日付けで国立大学法人評価委員会から評価結果（原案）の通知があった旨報告があった。

次いで深町副学長から、資料3-1・3-2に基づき、評価結果（原案）の概要について説明があった。

3. 令和元年度9月末までの資金運用報告について

事務部から、資料4-1・4-2に基づき、令和元年度9月末までの資金運用について報告があった。

4. 2018（平成30）事業年度財務諸表の承認について

議長から、平成30事業年度財務諸表について、8月30日付けで文部科学大臣から承認された旨報告があった。

次いで事務部から、資料5-1～5-3に基づき、各財務指標の分析結果等について説明があった。

5. 災害救助法の適用に伴う災害への経済支援について

議長から、資料6に基づき、令和元年8月の前線に伴う大雨及び和元年台風第19号による災害により被災した学生への入学検定料等の免除に関する特別措置の実施を決定し、本学ホームページ等において公表している旨報告があった。

6. 土地の有効活用（駐車場設置及び運営事業）について

議長から、資料7に基づき、新屋敷1団地における駐車場設置及び運営事業について、事業者が決定し、10月1日に運営を開始した旨報告があった。

意見交換

1. 熊本大学における産学連携活動について一連携制度の見直しによる現在の状況と今後の課題一

議長から、企業から大学への投資3倍をうたった「未来投資戦略2018」及び組織対組織の産学連携を推進するための「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」策定等を受け、本学で推進している産学連携活動について意見交換を行いたい旨提案があった。

次いで清水副学長から、資料8に基づき、連携制度の見直しによる本学の産学連携の状況及び今後の課題について説明があり、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見)

- ◇ 各大学で運営費交付金等の配分額や大学の規模は大きく異なるので、各データを比較する際は絶対値ではなく、教員一人当たり、学生一人当たり等で示した方がよいのではないか。

以 上

○ 次回開催：令和2年1月16日(木) 13時30分から

<配布資料>

- 資料 1-1 「国立大学改革方針」を踏まえた国立大学との徹底した対話の実施に向けた調書の作成等について(依頼)
- 資料 1-2 「国立大学改革方針」を踏まえた国立大学との徹底した対話の実施に向けた調書作成スケジュール
- 資料 1-3 第4期以降も見据えた将来構想(素案)について
- 資料 1-4 教育研究力向上のための連携・再編の推進(案)
- 資料 1-5 国立大学の適正な規模について(総論)
- 資料 1-6 国立大学の適正な規模について(エビデンス)
- 資料 2 寄附講座の設置について ほか
- 資料 3-1 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)
- 資料 3-2 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)整理表
- 資料 4-1 令和元年9月末まで資金運用報告(利息額報告を含む)
- 資料 4-2 資金運用実績(平成26年度～令和元年度)
- 資料 5-1 2018(平成30)事業年度財務諸表の承認について(通知)
- 資料 5-2 熊本大学の財務分析(財務指標の推移)
- 資料 5-3 財務レポート(平成30事業年度)
- 資料 6 熊本大学災害に伴う入学検定料・入学料・授業料の免除取扱方針
- 資料 7 国立大学法人熊本大学新屋敷1団地における駐車場設置及び運営事業について
- 資料 8 熊本大学における産学連携活動について一連携制度の見直しによる現在の状況と今後の課題一